

滑稽の方法

八木 健



滑稽論壇に八木健も書くべきだとの声が一部で高まり、日々の句作もままならぬ状況である。そこで考えたのが「滑稽俳句のつくり方」である。左記の図をごらんいただきたい。

俳人にあるまじき独善的な表情の男だが・・・

童心である。正直である。そして好奇心に満ちている。その男の頭の中には、あの芭蕉翁が説いた「高悟帰俗」の「高悟」・・・高いさととり・・・つまり「詩心」があるのである。

ところが手にしているペンは、けばけばしいサイケ調の色でいかにも俗っぽい・・・つまり「帰俗」「俗に帰れ」というものである。

ところがこの男は、子規さんの説いた「写生」を使うために天眼鏡を手にしたのだ。

この男が両脚を踏ん張っているのは、まだ未熟なためで肩にも力が入っているから、芭蕉翁の「軽み」にはとてもとても到達できそうにない。

さてこの男、どんな滑稽句の木を描こうとしているのかお楽しみ。葉は「滑稽句のひとつひとつを特徴づけるとすればこんな技法がつかわれている」ということを意味していて、一句に「擬人化」と「裏切りの構成」があるとか、「擬人化」と「誇張」の技法が使われているとか、複数の技法が重複してつかわれている。

それぞれの技法については、このホームページの「滑稽句のつくり方」をご覧ください。

私は、常にこのような技法をポケットに入れて持ち歩いている。だから滑稽句は比較的簡単につくることが出来るようである。

ぜひ一度おためしてください。